MITSUBISHI

9910MR871HA5502

エアリゾート

三菱 蓄気密 高断熱 住宅用 換気・冷暖房システム(天井埋込形)

形　名

VL-504HPR(冷暖房ユニット)
VL-40ALS(室外ユニット)
P-504GT(吸込パネル)　P-40LTU(コントローラ)

据付工事説明書　販売店・工事店さま用

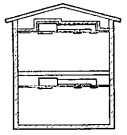
■据付工事を始める前に必ずこの据付工事説明書をお読みになり、正しく安全に据付けてください。
■ロスナイ換気ユニット・コントローラは製品に付属の据付工事説明書をご参照ください。
■据付工事は販売店または専門の工事店さまが実施してください。間違った工事は故障や事故の原因になります。
■据付工事部品は必ず付属部品と指定の部品およびシステム部材をご使用ください。
●当社指定部品およびシステム部材を使用しないと故障の原因になります。

別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。必ずお渡しください。

	ページ
1. 安全のために必ず守ること	2
2. 使用部品と使用箇所	3
3. 据付場所の選定	4
4. 室内側工事	5
4-1. 外形寸法図	5
4-2. 付属部品の取付け	6
4-3. 吊りボルトの取付け	6
4-4. 吊り込み作業	7
4-5. ドレン配管接続	8
4-6. ダクト接続	8
5. 室外側工事	9
5-1. 据付けの条件	9
5-2. 配管工事	10
5-3. 真空引き・リークテスト	11
5-4. 内外接続電線の接続	11
5-5. アース工事	11
5-6. 断熱とテーピング	12
5-7. 室外側ドレン配管	12
6. 電気配線接続 〈ポイント〉	12
6-1. 配線要領図（結線図）	12
6-2. 本体配線接続	13
7. 吸込パネル(P-504GT) の取付け 〈ポイント〉	14
7-1. 天井開口位置決め型紙の取付け・開口作業	14
7-2. パネル外枠の取付け	14
7-3. パネル内枠の取付け	15
据付工事後の確認	別紙
8. 試運転	15
9. お客さまへの説明	16

製品据付けのポイント

★断熱空間内に設置します。……3
（据付方法）



★冷媒配管が7mをこえた場合は、追加チャージが必要です。……5-3
★冷媒配管は確実に実施し、リークテストを必ず行う。……5-3
★本体の傾きは、1°以内……4-4
★周波数設定を行います。……6-2
（電気配線）
★基板スイッチの設定を行います。6-2
●2台以上接続する場合
●ロスナイユニットを接続しない場合
●アシスト機能を使用する場合

★電気配線は専用回路を設けます。6-1
★天井材は共鳴しにくい材質を使用します。
★ダクト配管は、風量低下や異常音発生を防ぐため、極端な曲げ、本体吹出口のすぐそばでの曲げ、極端なしぼりはしないでください。

1.安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠注意	誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

●図記号の意味は、次のとおりになっています。

禁　止	分解禁止	水ぬれ禁止	指示に従い必ず行う	アース線接続

⚠警告

●冷媒サイクル内に空気など指定冷媒(R-22)以外のものを混入させない。
(冷媒サイクル内が異常高圧になり、破損などの原因になります)

●改造や必要以上の分解はしない。
(火災・感電・けがの原因になります)

●浴室など湿気の多い所には、本体・壁スイッチとも取付けない。
(漏電・感電の原因になります)

●電源は単相200Vを使用し、ロスナイ・三路シャッターへの電源接続は単相100Vとする。
(電源を間違えると感電や火災の原因になります)
●天吊金具が引っ掛かっていることを確認する。(引っ掛かりが不十分ですと落下の恐れがあります)
●端子台接続部は、指定の電線を使用し、抜けないように確実に接続する。
(接続に不備があると火災の恐れがあります)
●配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う。
(接続不良や誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります)
●メタルラス張り・ワイヤラス張り、または金属張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取付ける。
(漏電した場合発火することがあります)
●据付けは、製品質量に十分耐える所に確実に行う。
(強度の不十分な所に据付けるとユニットが落下し、けがの原因になります)
●据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。
(部品に不備があると火災・感電・ユニットの落下によるケガ・水漏れの原因になります)
●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気する。(冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります)
●据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。(冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります)

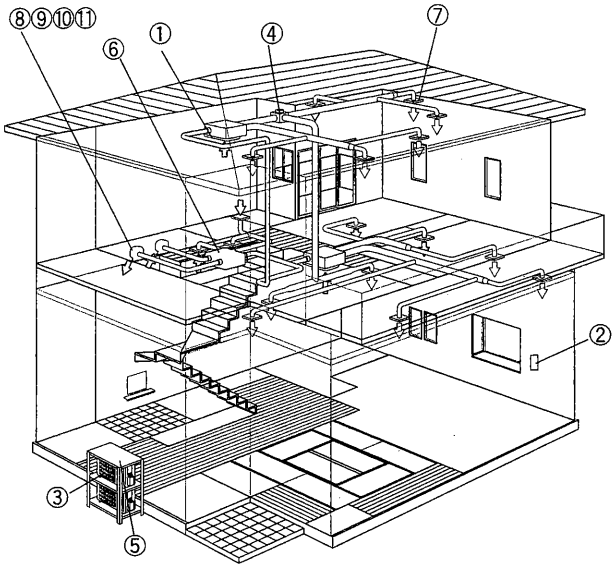
●アースを確実に取付ける。
(故障や漏電のときに感電の原因になります)

⚠注意

●高温となる場所や直接炎があたったり、油煙の多い場所には取付けない。
(火災の恐れがあります)
●可燃性ガスの漏れる恐れがある場所には据付けない。
(万一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、爆発の原因になることがあります)

●端子台カバーなどは操作後、必ず閉める。
(ほこり・湿気などの浸入により、漏電・火災の原因になります)
●据付後長期間ご使用にならない場合は、必ず分電盤ブレーカーを切る。
(絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります)
●据付けの際は必ず手袋を着用する。(けがの原因になります)
●据付場所によっては、漏電遮断器を取付ける。(感電の原因になることがあります)
●ドレン・配管工事は、据付工事説明書にしたがって確実に行う。
(工事に不備があると、ユニットから水が滴下して家財などを濡らし、汚損の原因になることがあります)

2.使用部品と使用箇所



別売部品

分類	No.	品名	形名
専用システム部材	①	吸込パネル	P-504GT
	②	コントローラ	P-40LTU
	③	室外ユニット	VL-40ALS
	④	三路シャッター	P-183DUE
	⑤	二段架台	MAC-184KD
	⑥	ロスナイ換気ユニット	VL-150.200 ZM.PZM.CZ3

分類	No.	品名	形名
給排気グリル	⑦	冷暖房用給気グリル（断熱仕様）	P-100GLB2 P-13LG-D P-13LGC-D P-13LGK-D P-13LGCK-D P-13LGY-D P-13LGCY-D P-13GSL

分類		No.	品名	形名
屋外部材	丸形フード	⑧	アルミ製ギャラリ付	P-13FA4 P-18FA4
		⑨	ステンレス製ギャラリ付	P-13FS4 P-18FS4
		⑩	耐外風低圧損形ステンレスフード	P-13KV3-BL P-18KV3-BL
		⑪	耐外風低圧損形 防火ダンパー付ステンレスフード	P-13KVD3-BL P-18KVD3-BL

一般市販部品

品名	
冷暖房ユニット設置	ボルト　M10　　ワッシャー ナット　M10
室外ユニット設置	室外ユニット固定台〔ブロックなど〕 日よけ
ダクト	断熱ダクト〔小口径ダクトシステム又はグラスウールダクトかさ比重64kg/m3品〕 アルミテープ〔ダクトメーカー指定品〕 接着剤〔ダクトメーカー指定品〕
ドレン配管	延長ドレンホース〔塩ビ管VP20〕 ドレン配管用断熱材〔発泡ポリエチレン比重0.03 肉厚10mm以上相当品〕 塩ビ系接着剤
冷媒配管	冷媒配管〔液管φ6.35mm(1/4"、ガス管φ12.7mm(1/2"))〕 冷媒配管用断熱材〔耐熱発泡ポリエチレン比重0.045肉厚14mm以上相当品〕 壁穴用スリーブ 配管穴補修部品〔パテ、カバー、または石こうなど〕 配管固定バンド 配管テープ 冷凍機油

品名	
電気配線	本体用ブレーカ〔単相250V 20A以上〕 ロスナイ換気ユニット用ブレーカー〔単相125V 5A以上〕 本体室外ユニット間接続電線〔VVF 3芯 φ2.0mm〕 ロスナイ換気ユニット用接続電線〔VVF 3芯 φ1.6またはφ2.0mm〕 コントローラ用電線〔電話線 2芯 PVC単線 φ0.65mmまたはより線 0.3mm2〕 絶縁ビニールテープ 冷暖房ユニット連絡電線〔電話線 2芯 PVC単線 φ0.65mmまた はより線 0.3mm2〕

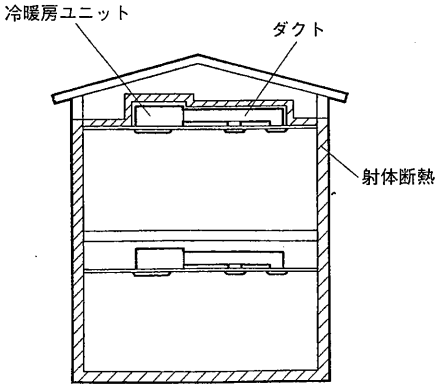
付属部品

冷暖房ユニット VL-504HPR		吸込パネル P-504GT		室外ユニット VL-40ALS	
パイプガイド …1個	据付工事説明書 …1冊 取扱説明書…1冊 保証書……1通	ガイド……1個	落下防止ワイヤー …2本	ドレンソケット …1個	クッションゴム …4個
型紙…1枚（製品の押え板）			取付ネジ…12本		

据付工事に必要な主な工具

1.ドライバ ⊕・⊖
2.金ノコギリ
3.φ70mmコアドリル
4.スパナ・モンキーレンチ
5.水準器
6.トルクレンチ　18N・m(1.8kgf・m)　42N・m(4.2kgf・m)　55N・m(5.5kgf・m)
7.フレアツールセット
8.パイプカッター
9.ナイフ
10.ガス漏れ検知器
11.水さしの容器
12.巻尺
13.温度計
14.クランプメーター
15.絶縁抵抗計(メガテスタ)
16.冷媒(R-22)
17.チャージセット
18.チャージシリンダ
19.六角レンチ(対辺4mm)
20.リーマ
21.検電器

3. 据付場所の選定



- ●天井裏であっても住宅の断熱空間内に設置すること。（暖房能力の低下、結露の発生が起こります）
- ●天井ふところが280mm以上確保できる場所
- ●吸込パネルをさえぎる障害物(収納箱など)がない場所
- ●住宅内の空気を均一に吸い込める場所

推奨：廊下天井裏、洗面所天井裏、ユーティリティ天井裏

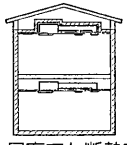
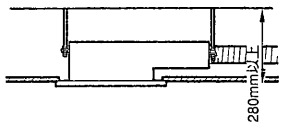
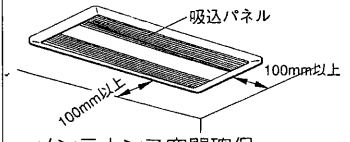
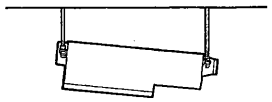
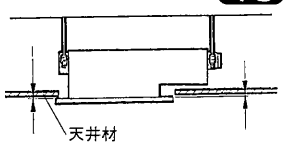
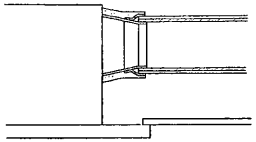
次の場所には設置しない

- ●結露の恐れがある高温多湿の場所
- ●メンテナンススペースのない場所
- ●寝室等、微少騒音、振動が問題になりやすい場所
- ●真下に家具、美術品などが置かれている場所

4.室内側工事

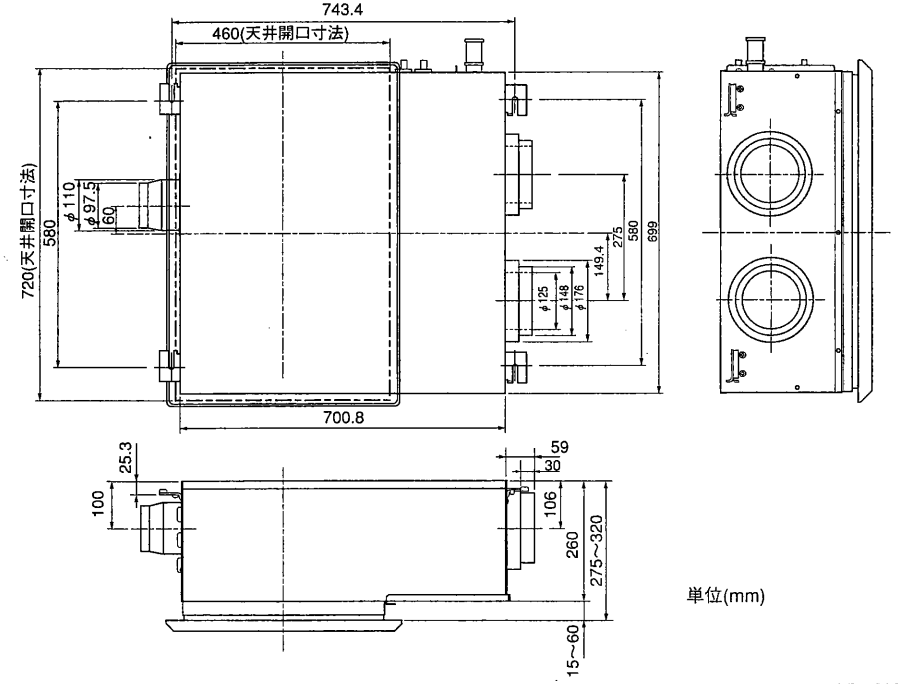
据付工事のポイント

…本体から空気吸込音がしますので、廊下天井裏・洗面所天井裏・ユーティリティ天井裏などの音が気にならない場所に据付けてください。

断熱空間内に設置→ 3  2階小屋裏でも断熱空間内設置	天井ふところ280mm以上→ 4-1  	壁面からの距離100mm以上→ 3  メンテナンス空間確保
水平設置→ 4-4  〔悪い例〕 天井と吸込パネルのすき間防止	本体位置と天井穴の位置確認 → 4-3  天井と吸込パネルのすき間防止	ダクト接続部の断熱処理→ 4-6  結露防止

4-1. 外形寸法図

■名　称：冷暖房ユニット(VL-504HPR)及び吸込パネル(P-504GT)

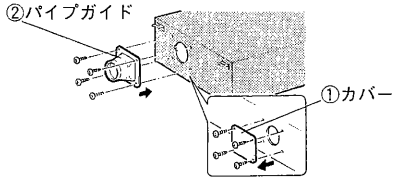


単位(mm)

4-2. 付属部品の取付け

パイプガイドの取付け

※ ロスナイ換気ユニットを接続する場合のみパイプガイドを取付ける。



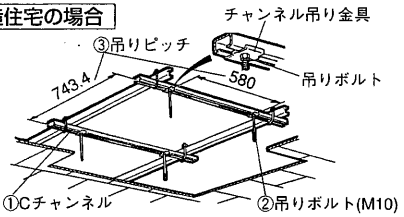
① カバーをはずす。
●本体にネジ止めしてあるカバーをはずします。
② パイプガイドの取付け。
●付属のパイプガイドをネジで取付けます。

4-3. 吊りボルトの取付け

吊りボルトの取付け

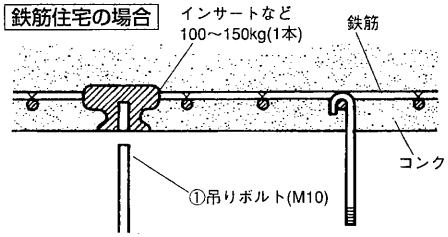
■吊りボルトは(M10)を使用します。
■吊りボルトは天井面から30mmの距離を離します。

木造住宅の場合



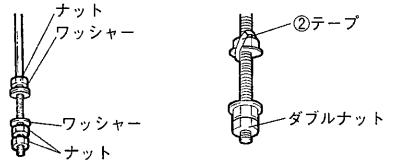
① 市販のCチャンネルを梁に取付ける。
② 吊りボルトを取付ける。
●Cチャンネルにチャンネル吊り金具を使用して吊りボルトを取付けます。
③ 吊りピッチを合わせる。
●外形寸法図の吊りピッチに合わせ吊りボルト位置を調整します。

鉄筋住宅の場合



① 図のように吊りボルトを固定する。
●またはアングル・角材などを使用して吊りボルトを取付けます。

ワッシャ・ナットの取付け



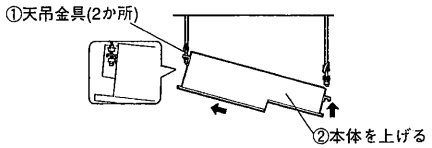
①図のようにワッシャー・ナットを取付ける。
●ナットはM10を使用します。

② ワッシャー類をテープで仮固定する。
●吊り込み作業の準備として上側のナット・ワッシャーをテープで固定します。

4-4. 吊り込み作業

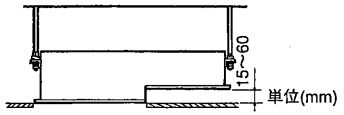
⚠警告
●天吊金具が引っ掛かっていることを確認する。
(引っ掛かりが不十分ですと落下の恐れがあります)

吊り込み作業



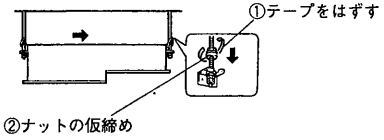
① 片側2か所の天吊金具を吊りボルトに引っ掛ける。
② 本体を押し上げ、もう片側の天吊金具を吊りボルトに引っ掛ける。

吊り込み高さと水平の調整



① 本体側面と天井面の高さが15~60mmとなるように調整する。
② 本体が水平となるように調整する。
●本体の傾きは、1°以内にしてください。

吊り込み後の処理

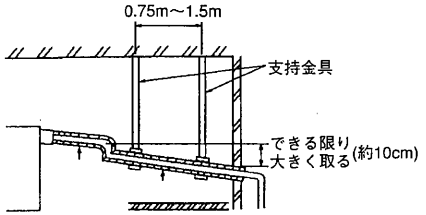


① 仮固定したテープをはずす。
② ナットを仮締めする。

4-5. ドレン配管接続

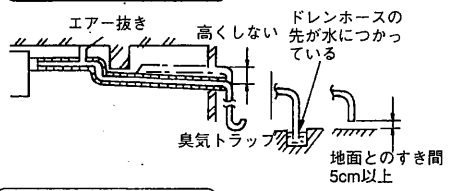
⚠注意
●ドレン・配管工事は、据付工事説明書にしたがって確実に行う。
(ドレン・配管工事に不備があると、ユニットから水が滴下して家財などを濡らし、汚損の原因になります)

ドレン配管例



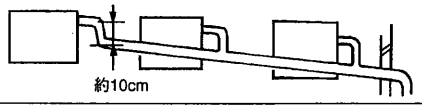
①ドレン配管は硬質塩ビパイプ一般管VP20(外径φ26)を使用し接続部は必ず塩ビ系接着剤にて漏れないように行う。
②ドレンパイプが屋内を通る場合は必ず市販の断熱材(発泡ポリエチレン比重0.03、肉厚10㎜以上)を巻く。
③室外側(排水側)が下りこう配(1/100以上)となるようにし、途中にトラップや山越えを作らない。
④横引きは20m以下にします。また、ドレン配管が長い場合には途中に支持金具を設けてドレン配管の波打ちをなくす。
⑤ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力を加えないようにし、できる限り室内ユニット近くで配管を固定する。

悪い接続例



お願い
●エアー抜き管は絶対に付けないでください。(ドレンアップメカ内蔵のためドレンが吹出る場合があります)
●ドレン配管の排水口部の臭気トラップは必要ありません。
●ドレン配管を、アンモニアガス、イオウ系ガスの発生する下水槽や浄化槽などに直接入れないでください。

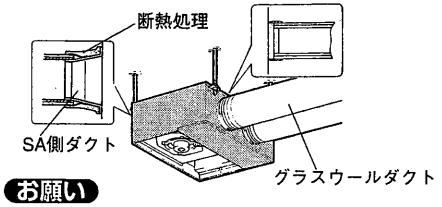
集合配管例



■集合管の取付け
●図のように本体ドレン出口部より約10cm位低い位置に集合管がくるようにし、集合管はVP30程度を使用し、下りこう配1/100以上になるように施工します。

4-6. ダクト接続

ダクトの接続方法



■60Hz地区では、ダクト圧損を4mmH₂O以上で使用してください。
■ダクトサイズは、φ150.φ100を使用する。
●室内吹出(SA)……φ150
●ロスナイ接続口… φ100

■室内吹出ダクトはすべてφ150のグラスウールダクトを使用し、それぞれに接続する。

■ロスナイ接続口のダクト接続(φ100)は断熱処理を行う。

お願い
●本体とグラスウールダウトの接続は、必要に応じ断熱仕様のフレキシブルダクトをご使用ください。
●系統別にできるだけ配管バランスを取ってください。(長さ・曲がり・分岐)
●各ダクトはできるだけ交差しないように配管してください。
●各系統はできるだけ等風量が流れるようにしてください。
●本体から出す系統のダクトは、できるだけ直管で取り出してください。
●ダクトはグラスウールダクト(64kg相当品)を使用し、ダクトメーカー発行の施工マニュアルを尊守してください。
●ダクトとの接続は、接着剤、アルミテープ等で全周貼り風もれのないように確実に接続してください。

8 裏面へ

5.室外側工事

5-1. 据付けの条件

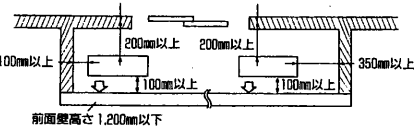
⚠警告

- **据付けは、製品質量に十分耐える所に確実に行う。**
  (強度の不十分な所に据付けるとユニットが落下し、けがの原因になります)
- **据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。**
  (部品に不備があると火災・感電・ユニットの落下によるケガ・水漏れの原因になります)

⚠注意

- **可燃性ガスの漏れる恐れがある場所には据付けない。**
  (万一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、爆発の原因になることがあります)

設置と必要寸法

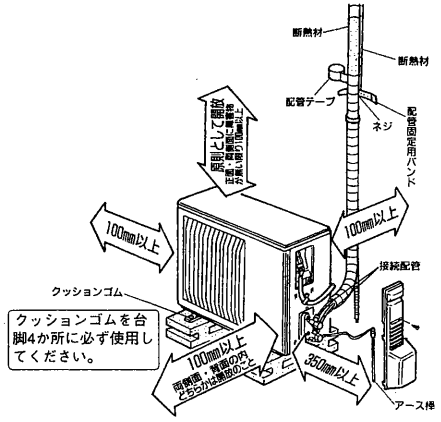


※複数並列の設置はできません。

次のような場所でご使用になりますと室外ユニットの故障の原因となりますので避けてください。

- ●機械油の多い所。　●温泉地帯。
- ●海浜地区など塩分の多い所。　●硫化ガスのある所。
- ●その他周囲の雰囲気が特殊な所。
- ●油の飛まつや油煙のたちこめる場所(調理場所や機械工場など)ではプラスチックが変質破損することがありますので、ご使用は避けてください。
- ●高周波機器、無線機器などがある所。(誤動作します)
- ●クレーン車、船舶など移動するものへの設置。

室外ユニットの据付け



■ 高所に設置する場合は、ユニットの足を必ず固定する。

■ ユニットは水平に設置する。

■ クッションゴムを取付ける。

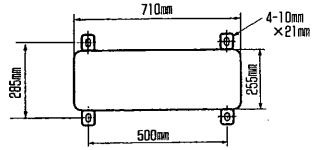
■ 正しい据付場所の選定

- ●強風に当らない場所。
  (霜取運転中、室外ユニットに風が当ると霜取時間が長くなります)
- ●風通しの良いほこりの少ない場所。
- ●雨や直射日光が当りにくい場所。
  (直射日光が当る場所は「日よけ」をお使いください)
- ●積雪により室外ユニットが埋もれない場所。
- ●運転音や熱風・冷風がご近所の迷惑にならない場所。
- ●運転音や振動が増大しないような丈夫な壁や強固な台
- ●テレビ、ラジオのアンテナより3m以上離れた場所。
  (映像の乱れや雑音が生じることがあります)
- ●後々のサービス、補修などを考慮した場所を選定する。

お願い

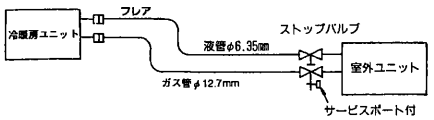
- ●風通しが悪くショートサイクルの起きやすい場所では、前面または背面に200mm以上のスペースをあけてください。
- ●壁に向けて吹き出ると壁が汚れる場合があります。
- ●室外ユニット固定用穴位置図は、エアコンの性能を保証するために必要な空間です。後々のサービス、補修なども考慮してできるだけ周囲の空間が大きくとれる場所に設置してください。
- ●二段架台(MAC184KD)を使用する場合は、二段架台に付属の据付工事説明書に従い行ってください。

室外ユニット固定用穴位置図



5-2. 配管工事

配管長・高低差



お願い

- ●延長配管が7mを超える場合は、冷媒の追加充てんが必要です。追加冷媒質量は30×(延長配管長さ−7)gです。また延長配管20mが許容長ですので、この長さを超える工事を行わないでください。

許　容　値	
配管長	3m以上20m以内
高低差	10m以内
曲げ箇所	10か所以内

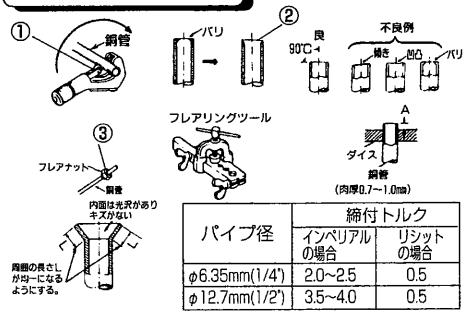
配管の準備

1. 市販の銅管を使用する場合は下表の仕様のものを使用します。

	外　径	肉　厚	材料および規格
液　管	φ6.35mm(1/4")	0.8mm	リン脱酸銅　C1220T JISH3300
ガス管	φ12.7mm(1/2")	1.0mm	リン脱酸銅　C1220T JISH3300

2. 断熱材は、耐熱発泡ポリエチレン、比重0.045・肉厚14mm以上相当品を使用します。
3. 冷媒配管は露付防止のために2本とも確実に断熱します。
4. 冷媒配管の曲げ半径は10cm以上にします。

配管加工



パイプ径	締付トルク	
	インペリアルの場合	リジットの場合
φ6.35mm(1/4")	2.0~2.5	0.5
φ12.7mm(1/2")	3.5~4.0	0.5

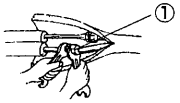
① パイプの切断。
- ● パイプの長さに余裕(300~500mm)を見て切断します。

② バリ取り。
- ● 切粉が配管内に入らないように下向きにして行います。

③ フレアナット挿入・フレア加工。
- ● パイプの曲げ加工は十分注意して、パイプをつぶしたり折らないように行う。

配管の接続

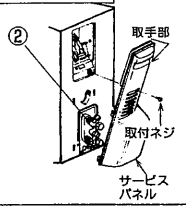
冷暖房ユニットの接続



① 冷暖房ユニットを接続する。
- ● パイプとフレアのシート面に、冷凍機油を塗布する。
- ● 接続中心を合わせ、フレアナットは最初の3~4回転を手で締める。
- ● フレア部の締付けは下表を目安に、必ず2丁スパナで締める。

パイプ径	締付トルク
φ6.35mm(1/4")	13.7~17.7N・m(140~180kgf・m)
φ12.7mm(1/2")	49.0~56.4N・m(500~575kgf・m)

室外ユニットの接続

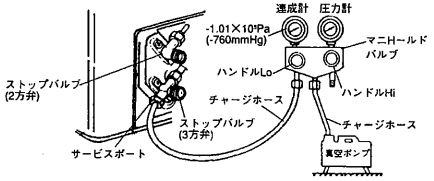


② 室外ユニットを接続する。
- ● 取付ネジ1本をはずします。
- ● サービスパネルを下側に押し下げてから取手部を手前に引いて取りはずします。
- ● 室内ユニットと同様、ストップバルブ(2方弁、3方弁)の各配管接続口へパイプを接続します。
- ● 締付けはトルクレンチまたはスパナを用いて、室内ユニットと同じ締付トルクで行います。

5-3. 真空引き・リークテスト

●マニホールドバルブ使用方法の詳細はマニホールドバルブの取扱説明書をご覧ください。
●ハンドルHiは全て閉で、以下の作業中は操作しません。

配管接続が確実に行なわれたかを確認する。
↓
ストップバルブ(3方弁)のサービスポートバルブのチャージホースの突起側(虫ピンを押す側)を接続する。
↓
ストップバルブ(2方弁、3方弁)の弁が全開になっていることを確認し、チャージホースを真空ポンプに接続する。
↓
マニホールドバルブのハンドルLoを全開にし真空ポンプを運転する。
●ストップバルブ(3方弁)のフレアナットを少しゆるめエアが入っていくことを確認し、再度フレアナットを締める。(エアが入っていかない時はチャージホースがサービスポートへしっかり接続されているか再確認してください)
↓
真空引きを15分以上行い連成計が−1.01×10⁵Pa(−760mmHg)になっていることを確認する。
↓
真空引きが終わったらマニホールドバルブのハンドルLoを全閉にし真空ポンプの運転を止める。



⚠警告

●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気する。
(冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります)

ストップバルブ(2方弁、3方弁)の弁棒を反時計方向に当たるまでいっぱいに回し、全開にする。ストッパーに当たったら、それ以上に力を加えない。

延長配管が7mを超える場合
追加冷媒質量は30×(延長配管長−7)g
延長配管が7mを超える場合
ストップバルブ(3方弁)のサービスポートよりチャージホースをはずす。

サービスポートのキャップは締付トルクが急に増加することにより更に1/12回転締付ける。
(締付トルク13.7〜17.7N・m(140〜180kgf・cm)に相当する)

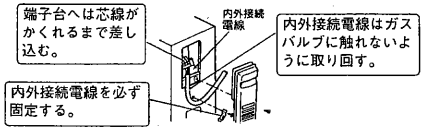
ストップバルブ(2方弁、3方弁)の弁棒用キャップは締付トルクが急に増加するところより更に1/12回転締付ける。(締付トルク19.6〜29.4N・m(200〜300kgf・cm)に相当する)

リークテストは石けん水を利用し室内側・室外側ともに実施してください。ガス漏れがある場合は、ガス漏れ部より泡がでます。泡が出ないことを確認します。

ガス漏れの場合
●フレアナット接続部を増締めしてください。
●増締めを行っても止まらない場合は、漏れ箇所修理後サービスポートより本体ガスをすべて放出し、ボンベガスより規定量を充てんしてください。

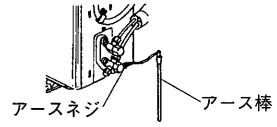
お願い
●締付トルクが大きすぎると、フレア部を破損し、ガス漏れの原因になります。
●フレア部が破損すると、増締めしてもガス漏れは止りません。

5-4.内外接続電線の接続



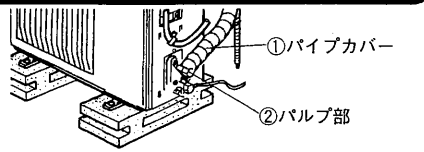
●後々のサービスのことを考え、内外接続電線には余裕をもたせる。
●冷暖房ユニットの端子の番号と合わせて接続する。(間違えますと、製品が破損します)

5-5.アース工事



●アース工事は冷暖房ユニット、室内ユニットのどちらかで行う。
●アース工事は、「電気設備技術基準」にしたがって実施する。

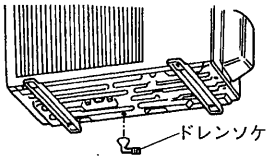
5-6.断熱とテーピング



① パイプカバーで接続部の配管をおおう。
② 室外ユニット接続部はパルプ部までしっかり断熱する。

お願い
●天井裏や押入れなどの高温・多湿な場所へ配管を通す場合は、露付き防止のため更に市販の断熱材を巻加えてください。

5-7.室外側ドレン配管



●図のようにドレンソケットを取付ける。

お願い
●寒冷地では、ドレン水が凍結しファンが回らなくなる恐れがあります。ドレンソケットは取付けないでください。

⚠注意

●ドレン・配管工事は、据付工事説明書にしたがって確実に行う。
(ドレン・配管工事に不備があると、ユニットから水が滴下して家財などを濡らし、汚損の原因になります)

6.電気配線接続

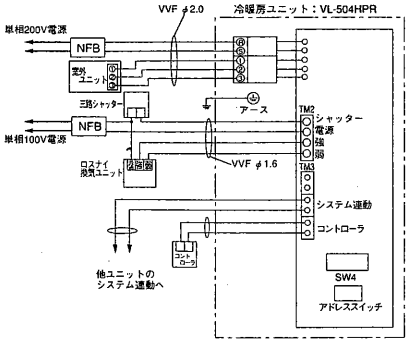
電気配線のポイント

■電源系と信号系配線はノイズの影響を避けるため分離する。
■使用電源は単相200V、単相100Vの2種類用意する。
●本体用電源　単相200V(室外ユニットの電源は本体から供給)
●ロスナイ換気ユニット用電源単相100V
●電源にはブレーカ(両切タイプ)を設けてください。

⚠警告

●電源は単相200Vを使用し、ロスナイ・三路シャッターへの電源接続は単相100Vとする。
(電源を間違えると感電や火災の原因になります)
●端子台接続部は、指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する。
(接続に不備があると火災の恐れがあります)
●配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う。
(接続不良や誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります)

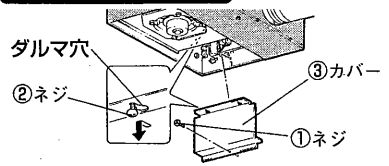
6-1. 配線要領図(結線図)



6.電気配線接続　つづき

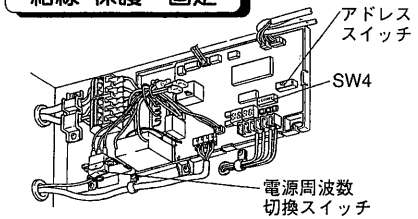
6-2. 本体配線接続

カバーを開ける



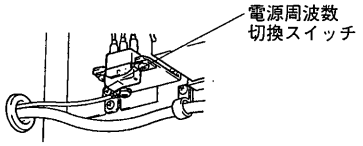
① ネジ(1本)をはずす。
② ダルマ穴のネジ(2本)をゆるめる。
③ カバーをはずす。

結線・保護・固定



① 端子台・速結端子に結線する。
② 図の要領で保護・固定を行う。

スイッチの設定



周波数の設定

使用地域の電源周波数を調べる。

●50Hz地域は、スイッチを切換える。
(工場出荷時は、60Hzに設定)

※表1

ユニット	ｱﾄﾞﾚｽ	アドレススイッチ
ユニット1(例:1階用ユニット)	1	
ユニット2(例:2階用ユニット)	2	
ユニット3(例:3階用ユニット)	3	

アドレススイッチの設定

複数台の冷暖房ユニットをシステム連動する場合、ユニット毎にアドレス設定が必要です。

●図と表(※表1)を参照して設定を行います。
●システム連動しない場合は、"1"に設定してください。

※表2

ロスナイ換気ユニット	スイッチ(SW4-5)	SW4
有	OFF	
無	ON	

ロスナイ換気ユニットの設定(SW4)

ロスナイ換気ユニットが接続されているか否かを設定する。

●図と表(※表2)を参照して設定を行います。

※表3

アシスト機能設定	スイッチ(SW4-6)	SW4
使用する	ON	
使用しない	OFF	

アシスト機能設定(SW4)

アシスト機能を使用するか否かを設定する。

●設定は、アシストする側(3路シャッターを接続する側)の冷暖房ユニットのみ必要です。
●図と表(※表3)を参照して設定を行います。

お願い

●他のスイッチの設定は変更しないでください。

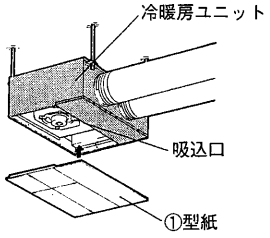
7.吸込パネル(P-504GT)の取付け

取付け作業のポイント

型紙の使用	取付け作業のタイミング	位置確認
●本体下面の吸込口を基準にテープで仮固定します。 ●天井穴の寸法を外形寸法図に合わせて確認してください。	●ダクト接続、冷媒配管接続、電気配線接続がすべて終了してから行います。 ●天井材を張り、天井開口穴を開けてから取付け作業を行います。 ●「据付工事後の確認」表でチェックします。	●本体の水平を水準器で確認しながら調整します。 ●天井穴と本体位置を外形寸法図に合わせて調整します。

7-1.天井開口位置決め型紙の取付け・開口作業

準備



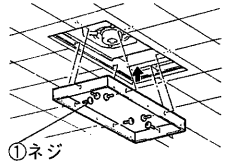
① 型紙の取付け。
●冷暖房ユニット(VL-504HPR)の梱包の製品押え板をそのまま型紙として使用します。
●型紙を冷暖房ユニットの吸込口を基準にテープ等で貼付けます。

お願い

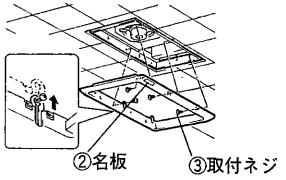
●ダクト工事、冷房配管接続、電気配線がすべて終了したことを確認してから、型紙を取付けてください。

② 型紙の開口部指示に沿って天井を開口する。
③ 天井開口穴寸法(720×460mm)を、外形寸法図(P5)に合わせて確認する。
④ 型紙をはずす。
●テープをはずし、型紙をはずします。

7-2.パネル外枠の取付け



① 冷暖房ユニットにガイドをネジ(6本)で取付ける。

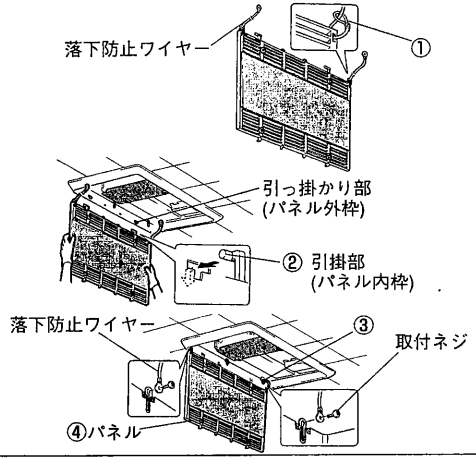


② 開く方向を決める。
●開き方向に空間があるかを確認し開く方向を決めます。
●名板が貼ってある方がパネルが開く方向です。

③ 取付ネジの取付け。
●付属の取付ネジ(4本)を図の位置(ガイド部)で本体に取付けます。

④ 固定する。
●全周が天井面に密着する位置まで押し上げ、あらかじめ緩めてあった取付ネジを増し締めして固定する。
(ガイド・パネル外枠は10～65mmの範囲で可動します)

7-3.パネル内枠の取付け



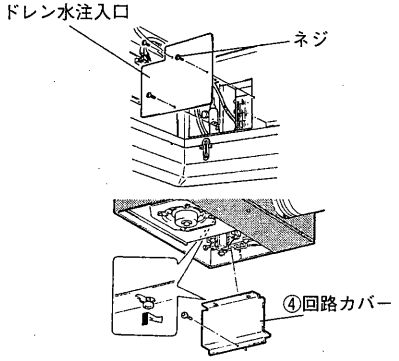
① 落下防止ワイヤーの取付け。
●パネルに付属の落下防止ワイヤー(2本)をそれぞれ図のようにパネル内枠に通します。

② パネル内枠を引っ掛ける。
●パネル内枠の引掛部をパネル外枠の引っ掛かり部に引っ掛けます。

③落下防止ワイヤーを本体に固定する。
●落下防止ワイヤー(2本)をパネルに付属の取付ネジ(残り2本)でパネル外枠固定とともに本体に固定します。

④パネルの取付け。
●両手でパネル内枠を押し上げ引掛部をパネル外枠にはめ込み、落下しないことを確認します。

8.試運転



1. **試運転前に「据付工事後の確認」表(別紙)に従いチェックを行う。**
2. **試運転の準備する。(ドレン排水チェック用のドレン水の注入)**

① ネジをはずし、ドレン水注入口を取りはずす。
② ドレン水をドレンパンに注入する。
●ドレン水は約1ℓ入れてください。多すぎるとオーバーフロー検知が動作します。
③ ドレン水注入口を取付ける。
④ 回路カバーを取付ける。
●取りはずしと逆の手順で取付けます。

試運転の方法

●専用ブレーカを「入」にしますと、コントローラに通電され「HO」を点滅(40秒以内)後、運転可能な状態になります。
(1)コントローラの [運転/キープ] ボタンを押す。
(2)コントローラの [運転切換] ボタンを押して**暖房モード**または**冷房モード**にする。(ドレンポンプは冷房モードの時に運転します)
(3)温度設定 [△](暖房運転) [▽](冷房運転)ボタンを押し続けますと「ピッ」と音がして温度表示が「H」または「L」となり暖房強制運転・冷房強制運転が始まる。(点検コード0900が点滅する)

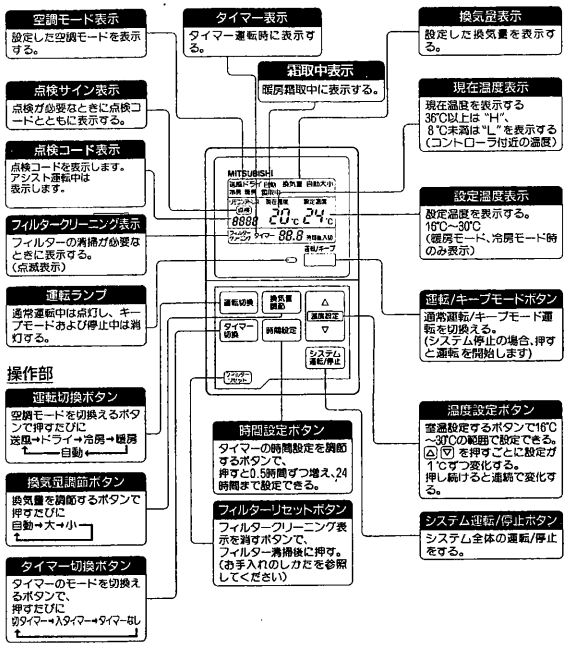
停止のしかた

(1) [システム運転/停止] ボタンを押す。または、10分経過すると試運転は自動的に解除される。
(2)専用ブレーカを「切」にする。

8.試運転　つづき

試運転時の確認事項

■次の項目にしたがって点検を行ってください。□の中に✓印を入れチェックをします。
異常がみられる場合は、再度据付け・配線・配管の確認を行い施工し直してください。
□ ダクト接続部からの風漏れがありませんか？　□ 各吹出口から冷風または温風が吹出していますか？
□ 本体に異常な振動や音は発生していませんか？　□ ドレン水は排水されていますか？
□ ロスナイ換気ユニットは、運転していますか？(各吸込口から風が吸込まれていますか？)



点検コードが点滅した場合の処置

点検コード	原　因	処　置
HO消えず(40秒以上)	コントローラ接続前に冷暖房ユニットを通電した。	電源を切り、コントローラを接続してから再度電源を入れる。
6608	通信異常	コントローラ、室外ユニットの配線を再度確認する。
6600	アドレス2重定義異常	アドレススイッチの設定を確認する。
7113	アシスト機能設定異常	アシスト機能設定スイッチの設定を確認する。

※点検コードが上記以外のときは、回路カバーについている点検コードをご参照ください。

9.お客さまへの説明

●別冊の取扱説明書にもとづいて、正しい使い方をご説明ください。とくに「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重大な注意事項を記載していますので、必ず守るようご説明ください。
●この据付工事説明書は、据付け後お客さまにお渡しください。なお、(同梱の)取扱説明書および保証書も必ずお客さまにお渡しください。

三菱電機株式会社
中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号 電話0573-66-2111